

第3章

【「探究的な学び」の展開】実践例

〈地域への貢献を探究する「縦」と「横」の取組例～菊池市立菊池南中学校～〉

菊池南中学校は、国立教育政策研究所指定のESDによる教育課程研究指定校として、SDG'sを目指す指標として教育活動に取り組んでいる。その上で、総合的な学習の時間では生徒会委員会による「縦」と、各学年による「横」のつながりのある実践を積み重ねている。生徒自らが「地域のために自分たちに何ができるか」をSDG'sの指標として、探究・企画・実現の各プロセスの学びから、達成感による自信と、新しい地域貢献の発想が生まれていった。一連の学習を通して、次第に地域人材の広がりや協力等、学びを支える体制が強化されるとともに、地域の活性化につながっている。

ESDを根底に据えた「縦」（生徒会・委員会活動）と「横」（学年）による総合的な学習の時間の取組



**【成果】**

- ESDによる学校・地域への貢献を探究テーマに取り組み、総合的な学習の時間が充実しています。
- 成功体験の重なりと達成感により、生徒は積極的に取組を発想しアイデアを出すようになりました。
- 地域学校協働活動推進コーディネーターが積極的に活用され、地域の協力体制が強固になっています。  
(令和元年度 地域からの協力者延べ数240人)
- 各教科と総合的な学習の時間との学びの往還により、学力向上が期待されます。

第3章 「探究的な学び」の展開 実践例

探究的な学びを展開する単元デザインの取組 ～産山村立産山学園～

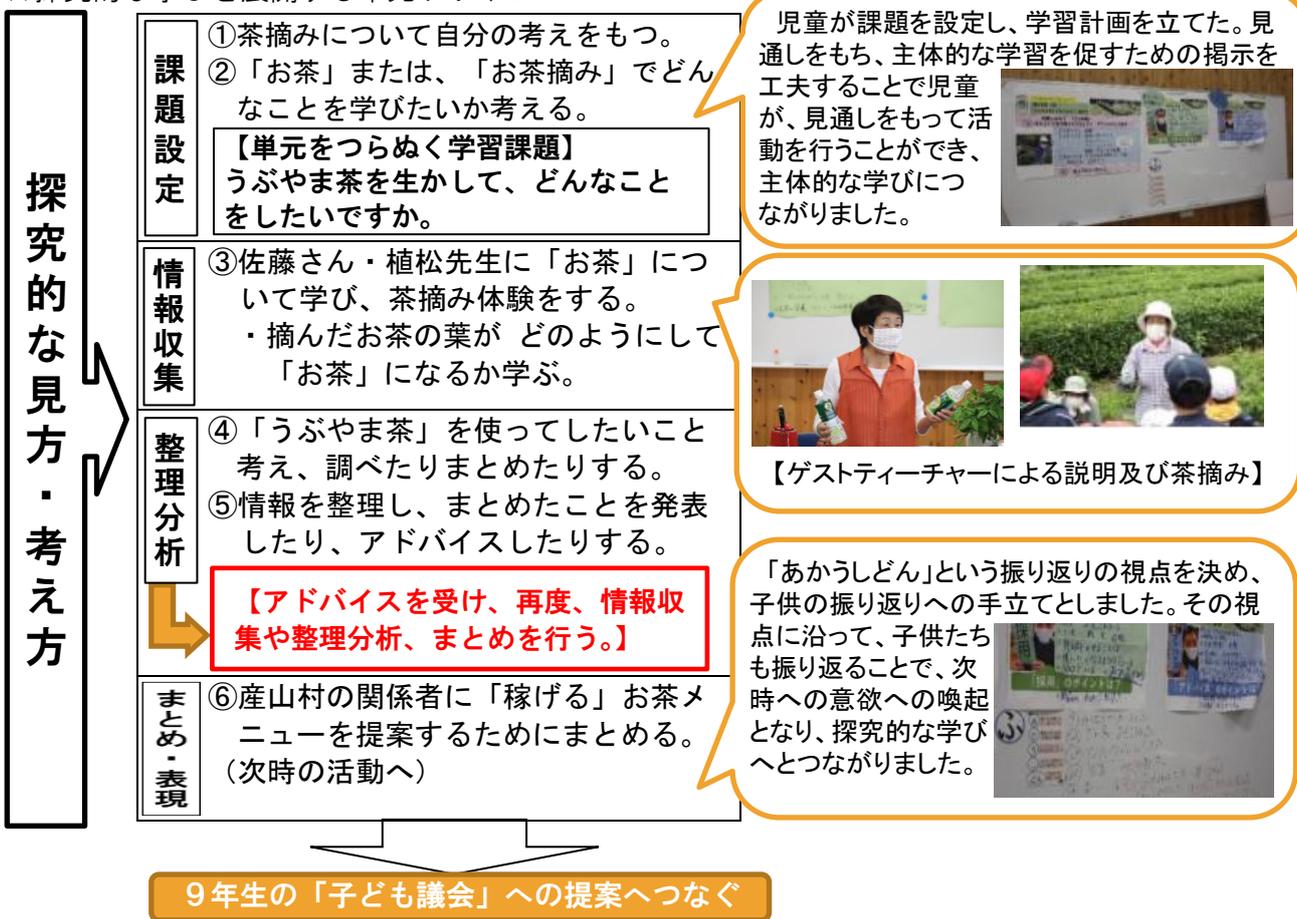
産山学園の「うぶやま学」は、多くの体験学習を中心に、地域への誇りや自己の生き方を考える学習である。その体験学習の一つとして、「子供ヘルパー活動」や「子ども議会」等を行っている。9年間を通した連続的な学びを一つの探究的な学びとして位置付け、学習を進めている。4年生では、地域のお茶摘みの体験から、お茶を使った商品を提案するという活動を計画して実施した。

★探究的な学びを展開する単元を通した学習課題

うぶやま未来計画 勝手にコラボ『うぶやま茶』プロジェクト『茶摘みから はじめよう！！』『稼げる』お茶メニューを提案しよう！！（ふるさと納税返礼品）

【単元終了時の学習者の姿】  
「うぶやま茶」を通して、自分のやりたいことに気付き、そのためにやらなければならないことについて自ら学び考え、表現することによってその考えを広め、やりたいことを実現しようとする子供

★探究的な学びを展開する単元デザイン



「うぶやま学」における探究的な学び  
お茶摘みを通して、自分で課題を作り、調査活動を繰り返し、調査に伴う課題を繰り返し解決しながら、まとめ・表現を行う。さらにその活動での課題を次の体験活動に生かし、各学年で学んだことを9年生の「子ども議会」へとつなげる。

【成果】  
 ○自分たちで課題を決め、体験学習に臨んだことで、新たな問いを見つけることができ、主体的な学びにつながっています。また、新たな問いから自分たちの学習を見つめ、再度、構築していくことで、探究的な学びへとつながっています。  
 ○ゴールが明確化され、自分たちの学習を継続的に振り返ることで、学習への意欲を高めることができ、児童自らが、お茶を使った製品を意欲的に考えたり、アドバイスしたりすることができました。